

さくらクォーターリー・レビュー The Sakura Quarterly Review

順天堂大学さくらキャンパス図書新聞

Volume 3. Winter 2021

BOOK REVIEW

『Jin -仁-』全13巻

村上もとか (著)

集英社文庫 2010~2013年

本作品はテレビドラマ化もされており、ご記憶にある方も多いかもかもしれません。また、「仁」という題名からも本学を連想され、読まれた方も多いかと思います(実際に見慣れた光景も出てきますね)。医史監修担当は順天堂大学名誉教授・医学部医史学の酒井シヅ先生です。

「現代の医師が、もし幕末へタイムスリップしたらどうなるか？」

西暦2000年の現代から幕末の日本へタイムスリップした脳外科医・南方仁が、現代から持ち込んだ知識と幕末の人々の協力により、近代医療を実現していく作品です。

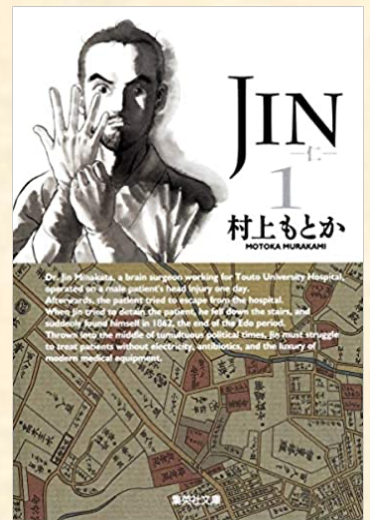
天然痘、ペスト、スペイン風邪、インフルエンザ、ノロウイルス、SARS…そして、現在猛威を振るっている新型コロナウイルス。令和の現代も幕末も同じく、私たちは、ずっと「感染症」と戦ってきました。そしてこれからも…感染症との戦いは永遠の課題だと思っています。

梅毒、結核が蔓延した幕末。現代では当たり前である「感染予防」の知識や技術もなく、そして、医療器具も抗生物質も化学療法薬もない時代に医師は何ができるのか。「与えられた環境や状況でできることはなにか」。消毒、隔離、衛生・栄養管理…といった高度な医療技術に頼らない感染症対策の原点が盛り込まれています。

南方仁が医師として、幕末の人々の病やケガといった難題に立ち向かっていく過程には、緒方洪庵、松本良順といった医師の協力だけでなく、坂本龍馬、沖田総司など幕末に活躍した人物も登場します。これまでに全く歴史に興味がなかった私も幕末の人々の生き様を感じながら読み進めることができたほど、歴史物としても非常に面白い作品だと思います。

「人を救うには、人が助かるには、人が生きるには…何をすればよいのか」。先行きの見えないコロナ禍の今、本作品は人が生きる原点を考える良い機会になるかと思っています。

(スポーツ健康科学部 中西唯公)



『スポーツと君たち 10代のためのスポーツ教養』

佐藤善人 (編著)

大修館書店 2019年

この本では日本で生活する若者たちがスポーツと関わって感じる素朴な疑問に対して、20人の専門家が明快に回答しています。

スポーツを英語で表記するとき、複数形Sportsと単数形Sportの2つがあります。私は言語学者ではないので、違いについて詳細は分かりませんが、複数形で表現するときはスポーツの種目の集合体として、単数形で表現するときは運動・スポーツ・体育・身体活動など、からだを動かすこと全般を指す意味で使われることが多いです。事実として国民体育大会はNational Sports Festivalであり、様々なスポーツ種目の大会なので複数形になっています。日本スポーツ協会はJapan Sport Associationであり、運動・スポーツ・体育・身体活動の振興を担う組織であることが分かります。本書のタイトルにあるスポーツはこの意味ではSportを取り扱っています。

トレーニング、怪我、運動部活動、スポーツ文化・歴史、マスコミ、ボランティア、保健体育授業などを取りあげ、主に中学生をターゲット層に書かれているため専門的な知識がなくてもどんどん読み進めることができます。「スポーツをする・スポーツをみる・スポーツをささげる」とは、スポーツへの多様な関わり方を表現する際に使われる言い回しです。加えて最近では「スポーツを知る・スポーツを創る」ことも関わり方のひとつとして表現されます。この本は更に「スポーツを学ぶ」と「スポーツを考える」ことの面白さに気づくことのできるスポーツ教養本です。

スポーツ健康科学を学問として学び始める前の導入として、あるいは、教師やスポーツ指導者を目指している学生にとっては児童生徒に分かりやすく教える際の虎の巻として役立つと思います。20人の専門家の中に大学院スポーツ健康科学研究科長の内藤久士先生がいます。不肖私もその1人です。コマーシャルの機会をいただきありがとうございます。

Be active for beautiful life.

(スポーツ健康科学部 鈴木宏哉)



『職業は武装解除』

瀬谷ルミ子 (著)

朝日新聞出版 2015年

私がこの本に出会ったのは、大学を卒業して2年目の23歳の時だった。インパクトのあるタイトル。世の中に「武装解除」というそんな荒々しい名前の職業がある。そして、日本人女性が第一線で活躍している。

この本は、著者の瀬谷ルミ子さんが認定NPO法人日本紛争予防センターの事務局長になるまでの道のりを綴った本である。「武装解除とは、紛争が終わったあと、兵士たちから武器を回収して、これからは一般市民として生活していけるように職業訓練などをほどこし、社会復帰させる仕事だ。(本文より)」。戦争や紛争が終戦すると、自動的に平和な社会になるのではなく、終戦後がむしろ平和への長い道のりのスタートである。戦争が終われば兵士は無職になる。銃を持って戦い方を熟知した手持ち無沙汰の兵士たちが町中に溢れる。自分が持っている銃を渡したら撃たれるかもしれない。そんな緊張状態の中で、「あなたの武器を回収します。」なんて話がスムーズに進むわけがなく、武装解除は困難を極める。中には、戦争加害者が利益を得る交渉も必要となる。親を殺し、村に火を放つことを強要され、洗脳された子供兵たちは自分たちの村に帰れるはずがなく、悲しくても泣くことすらできないほど心に傷を負う。親を殺された子供と、30人殺さなければならなかった子供はどちらが被害者だろうか？10代の若い女性たちはその日を生きるために、数百円で自分の身体を売り、数十円のパンを買う。何もなくとも身体を使えばお金が稼げることを彼女たちは知る。

この本では、現地の人々の生活、文化、社会の価値観に寄り添いながら、あくまでも外部者としてどのように彼ら/彼女らの目指す平和に近づくサポートができるのか。失敗や苦悩も含めた瀬谷さんの20代の奮闘が記されている。淡々と描写される現地の様子は、同じ時代にこの地球で起きている現実とは思えないほど悲しいものである。しかしながら瀬谷さんの語り口から、現地の人たちの人間らしさや温かさが伝わってきて、「私たちと何も変わらないんだ」とも思わせてくれる。この本は、世界で起きている出来事が、遠い遠い国で起きている関係のない出来ことではなく、自分ゴトとして考えるきっかけを私に与えてくれた本だ。

また、私がこの本に惹かれたもう1つの大きな理由は、瀬谷ルミ子さんという20代の女性の意思を持った生き方であった。「肩書きも所属も関係なく、身一つで現場に放り込まれても変化を生める人間になる」、「現実を見極めるために現場について自分で調べる」、「人生の岐路に立った時には、大変でもより実力が付く選択肢を選んでおこう。人生は一度きりだし、一番やりたいことが思いきりできる20代は直感の赴くままにいこう」。(以上、本文より抜粋) 当時、米国留学中であった私は自分の不甲斐なさや先行きの不透明さに不安を抱えていた。しかし、この本に出会い、自身の20代をどのように歩んでいくべきか。目印をもらったような気持ちになった。

(スポーツ健康科学部 野口亜弥)



『ソード・アート・オンライン』

川原 礫 (著)

角川文庫 2020年

「プレイヤーの諸君、私の世界へようこそ」

2022年11月6日、1万人の生死を分かつてスデゲームが始まった。

次世代VRMMO「ソード・アート・オンライン」(SAO)は、クリアするまでログアウト不可、ゲームオーバー＝“現実世界での死”という過酷なゲームになってしまったのだ。物語の舞台は100の階層を持つ巨大な浮遊城《アインクラッド》。プレイヤーは剣1本を頼りに各階層のボスマンスターを倒し、頂上である最終第100層を目指す。そこで最後のボスを倒せばゲームクリアとなり、その時点で生きていたプレイヤーは全員解放される。この状況をいち早く現実として受け入れた主人公キリトは、パーティーを組まないソロプレイヤーとしてゲームクリアを目指す。果たして彼は、仮想世界から抜け出すことができるのか。

この物語はスデゲームが始まって2年経ったところから話が始まる。キリトは連日、文字通り命を削る戦いを繰り返していた。この世界で生き延びることだけを考えるなら、武器をとって戦うのではなく、HPが減らない街や村といった安全な場所で生活するのが最良の手段だ。しかし、キリトを含む一部のトッププレイヤーは命を賭けて最前線を駆け抜ける。何が彼らを突き動かしているのか、また、キリトはなぜパーティーを組まず、ギルドにも所属しないのか、登場人物の内面が、物語の中で少しずつ明かされていく。第1巻は《攻略組》と呼ばれるトッププレイヤーたちが主役のメインストーリー、それに対し第2巻は、中層プレイヤーや、キリトが出会った人々にまつわる4話が収録されたサブストーリー集となっている。SAOはアニメ化もされているので、動画サイトでアニメを1度見て作品の世界観をつかんでから原作を読むのも良いかもしれない。私もアニメから入ってSAOの世界観に魅了され、そのあと原作を読み始めた。

ゲームが好きの人だけでなく、異世界ものが好きな人にもお勧めできるシリーズだ。幻想(バーチャル)が現実(リアル)に変わる。重量感あるSFファンタジー、ぜひ読んでみてほしい。

(スポーツ健康科学部3年 曾根千尋)



していないか考え、そして、新しいことに取り組んでいくきっかけを与えてくれた本である。

(スポーツ健康科学部 4年松本岬羅)

『1%の努力』

西村博之 (著)

ダイヤモンド社 2020年

タイトルがまず、非常に斬新で目をひいた。著者が2ch(現:5ch)の開設者であり、東京プラス代表取締役等を務める西村博之氏だったことにも興味をもち、手に取った。

タイトルに反し、内容は非常にわかりやすかった。メディア上では毒舌で、独特なキャラで知られている西村博之氏の書く内容は、現実世界同様に表現が独特で秀逸であった。例えば、本田圭佑氏について言及している箇所がある。サッカーの試合で、歓声が上がるとなるとスーパーゴールを決めたい時に、具体的にどのような練習をすれば良いだろうか。短絡的に考えると、シュート練習をひたすら繰り返すのが当たり前だ。しかし彼は違った。シュートを打つためのボールの置き所、コントロールを左右するボールの置き所について集中的に考えたのだ。どれだけシュート練習そのものの回数を重ねても、理想通りの位置にボールをコントロールできなくては、理想通りのシュートは打てない。ここで求められるのは、最大の効果に向けて何をすべきか、状況を客観的に捉え分析することである。それがこのタイトルに込められたメッセージではないだろうか。努力をひたすらすれば良い訳ではなく、「効果をあげる努力」をすることが重要であり、その割合は1%の努力でいいと氏は言い切る。

非常にわかりやすい話ではあり、読んだ人は、自分もそういう思考に変えようとするのが当然だろう。だが、前提として考慮すべきはあくまでこれは、本田圭佑氏であり、西村博之氏であるということである。私たちが単に努力の割合を1%にしても成功する可能性は高くない。読者の関心をひきつけるためかもしれないが、過度な表現であることを理解した上で、私たちが今、ひたすら実践している取り組みの効率を、今一度考え直す良い機会と捉えるべきだろう。順天堂大学の一学生として、今やっていることは本当に効果的に行えているのだろうか。勇気を持ってやめるべき努力を



『星の王子さま』

サン＝テグジュペリ (著) 河野万里子 (訳)

新潮文庫 2006年

〈本の紹介〉フランス人作家サン＝テグジュペリにより書かれた童話。1943年に出版され、現在までに300以上の国と地域の言語に翻訳される世界的ベストセラー。砂漠に不時着した飛行士が小さな星からやってきた王子さまと出会い、王子さまが旅した星々の話から、人生で本当に大切なことを知るものがあり。

〈作者の紹介〉サン＝テグジュペリ (アントワーヌ・ド・サン＝テグジュペリ) は1900年6月29日、フランス、リヨン生まれの作家・飛行家。郵便輸送パイロットや第二次世界大戦の偵察飛行の体験をもとに『南方郵便機』『夜間飛行』などの作品を執筆、行動主義文学の作家として活躍した。

もともと『星の王子さま』は小学校4年生の読書感想文のために読み、当時はまったく理解できずにいました。しかし、大学4年生の今となって読み直してみると本の内容を理解でき、自分が日頃執着している物事がどれほどくだらないものか痛感させられ、大人になったことを実感しました。挿絵つきで文字数もページ数も多くなく、だれでも読めてしまうぐらい優しい言葉で書かれています。その言葉の裏には大人へ向けた皮肉のメッセージが書かれています。まだ読んだことのない人はもちろん、すでに昔読んだことのある人も、作者が伝えたいメッセージを考えながら読んでいただきたいです。人生の中で何を大切にすべきか、考えることができると思います。

令和2年2月29日から30日までゼミ合宿で箱根に行き、自由行動で私は星の王子さまミュージアムへ行きました。「星の王子さま」の世界観を感じることや、作者のサン＝テグジュペリの生涯を知ることができ、本だけではなく、作者自身や、作者の他の作品を知るきっかけとなりました。作者の波瀾万丈な人生や価値観を知ると、よりいっそう「星の王子さま」を好きになりました。

この星の王子さまミュージアムは作者ゆかりの地であるフランス風の町並みが再現されており、園内にはカフェや教会、庭園、展示ホールなどがあります。庭園では5月下旬から7月上旬には物語にも登場するバラが咲き誇り、冬にはライトアップされた園内を楽しむことができます。

箱根に寄った際にはぜひ足を運んでみてはいかがでしょうか。

(スポーツ健康科学部 4年 松下公美)



『星の王子さま』の各国語翻訳が展示されているコーナー。世界中で愛されていることがわかります。(撮影許可: 星の王子さまミュージアム)

本をめぐる旅 第3回

箱根本箱 (箱根)

〒250-0408

神奈川県足柄下郡箱根町強羅1320-491

今回は、ブックホテル「箱根本箱」に取材に行ってきました。館内には2万冊弱の本がありますが（取材時2020年2月末時点）、この本をインテリアとして捉えるのではなく、実際に購入できることに拘っているとのこと。日本初の「本が実際に買える、本をコンセプトにしたホテル」です。

全室に温泉露天風呂と「あの人の本箱」が付き、1つとして同じ客室はありません。各部屋に設置された本箱の本を選んだ「あの人」が誰なのかを知るお楽しみもあります。読書に疲れたら緑を眺めながら温泉へ。お食事は箱根の食材を生かしたイタリアンです。ミラノの名店で修行したシェフによるお料理はとっても美味しそう！



さくらQR: 木を生かしたとても素敵な空間で、ランダムに並べられた本のタイトルや表紙にワクワクします。宝探しのような気分です。このホテルのコンセプトについて簡単に教えてください。また、これらの本の選択はどのようになされているのでしょうか。

箱根本箱: 昔は、待ち合わせが駅前の本屋さんだったことはよくありましたよね。しかし現在は、検索したキーワードにヒットした本をネットで購入する時代です。電子本も普及してきました。だからこそ、本との偶然の出会いの場を作り出したい、というのはありました。こちらに用意しているのは、ブックディレクターによってセレクトされた本ですが、あえてカテゴリーなど表記しないディスプレイを採用し、普段本を手にとる機会が減っているお客様が偶然の本の出会いを楽しんでもらえるようにしました。

さくらQR: 確かに、館内を歩いていると書物の海を回遊している気分です。純文学の横に昆虫図鑑があったり、雑多なようで、隠れたルールがあるような。意表をつかれる出会いが楽しいディスプレイだなあと。

箱根本箱: 「あの人の本箱」というコーナーは、共有スペースだけではなく各部屋にもご用意しているのですが。普段本はあまり読まない、というお客様でも「この俳優さんのおすすめなら」「この映画監督が影響を受けた本って？」というふうに興味を持ち、手にとってもらえるということがあります。

さくらQR: 部屋ごとにインテリアが異なっているということですが、そこに置いてある「本箱」も異なる訳ですね。部屋ごとにコンセプトを決め、インテリアから置いてある写真集、本までをプロデュースしている例はイギリスのテレンス・コンランが手掛けたアルビオンホテルも彷彿とさせます。

箱根本箱: 私どもは、より本に特化して、読書を楽しんでもらうために

「部屋にTVを置かない」という点も特徴的かもしれません。最近SNSなどで知られるようになったこともあり、若い方の割合が増えました。ただ、写真をとってインスタグラムにあげたりしても、滞在時間がかかり余りません。そうすると、本を手にとって、読み始めてくださる。読書の時間と静かな環境を気に入ってくださるのでしょうか。一人で宿泊される方の割合も多いですが、一度泊まって、何度もきてくれる方も増えてきています。あと、複数泊しても、それぞれが思い思いの場所で読書してたり。

さくらQR: 箱根本箱を訪れるきっかけが「インスタ映え」だったとしても、実際に来てみて、写真を撮った後は面白そうな本を手にとって、ハンモックに揺られながらページをめくってみる。その一泊の経験が、スマホと距離を置く時間の過ごし方を再考するきっかけになっているかもしれないと思うと、興味深いですね。

箱根本箱: 食事でもぜひ楽しんでいただきたいです。我々「自由人」という会社で経営しているのですが、「箱根本箱」以外でも古民家を改造した宿泊施設を手掛けたり、レストランも農業などを使っていない地元野菜や添加物を排除したお食事を提供しており、自然との共生を意識した事業展開をしています。

さくらQR: 最後に唐突な質問で申し訳ないのですが、今日の気分て、一冊選ぶとすればどの本ですか。

箱根本箱: 悩めますね、何しろこれだけの本に囲まれて勤務していますので。今思いついたのは、旅の気分を共有できるの近藤史恵さんの『スーツケースの半分は』（祥伝社文庫）でしょうか。主人公が偶然手に入れた青いスーツケースを中心に9つのストーリーが展開していくのですが。小さなきっかけでうごきた人たちの背中をそっと押してくれる。幸せを運んでくれるスーツケース、読むと一人旅に出たくなります。奈良に、「くるみの木」という素敵なカフェ雑貨店があるのですが、そのオーナーさん、石村由起子さんの本も旅の合間に読むのにおすすめですね。

さくらQR: 色々との話も尽きないですが、ぜひ今度は宿泊で伺いたいです。ありがとうございました。



学術メディアセンターからのお知らせ

今回紹介された図書『JIN-仁-』、『スポーツと君たち』、『星の王子さま(岩波書店出版の本で、訳者は違う方です)』を所蔵しておりますのでご利用ください。

図書の郵送貸出も引き続き受け付けております。詳細は学術メディアセンターのホームページにてご確認ください。

開館時間を短縮しております。平日9:00-17:00 土9:00-13:00

<http://www.juntendo.ac.jp/hss/library/>

編集後記: ご寄稿くださった皆様、本当に有難うございました。書評原稿を短い期間で提出してくださったにもかかわらず、編集作業が大幅に遅れてしまいましたことお詫びします。外出もままならない時間を過ごす中、これからも読書の楽しみを積極的に紹介していきます！(庄子ひとみ)

原稿募集!

おすすめの本や映画をぜひ紹介してください。新刊/新作である必要はありません。原稿はWordファイルで作成し、hi-shoji@juntendo.ac.jp さくらクォーター・レビュー編集部(庄子ひとみ研究室)宛に添付ファイルで送信してください。